科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：中国史の基礎資料 ILAS Seminar :Readings of Essential texts for Chinese History			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 辻 正博		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員(1回生定員)	6 (6) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	吉田南総合館４７５演習室			使用言語	日本語
キーワード	中国史 / 漢文訓読 / 史料講読						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

中国史の基本資料を読む―漢文訓読法の基礎

中国史の基本資料を講読する中で、漢文訓読の基本的な技法を身につけることが、この授業の目的です。

日本人は古来、中国の歴史や文化に強い関心を持ち、それを知ろうとしてさまざまな工夫を凝らしてきました。「訓読」とは、中国語（古典漢文）に訓点をつけ、日本語＝「漢字仮名交じり文」として読解するために編み出された、先人の知恵の一つです。現代中国語は現代音で音読するのが普通ですが、古典（漢文）については、訓読方式で読むのも味わい深いものです。

この授業では、中国史の基本資料を「訓読」して、その内容を理解することを目的とします。高校時代に漢文を少しかじった程度の人でも、少し努力をすれば訓読のコツをつかむことは容易です。この機会に、訓読の基本的な技法を身につけましょう。

テキストは『資治通鑑』です。北宋時代に編纂された歴史書ですが、虚飾を排した文章ゆえに、訓読の基礎を身につけるには適していると思います。奮って挑戦してみて下さい。

[到達目標]

伝統中国を知るための根本となる「漢文」の読解について、基礎的な知識を身につける。

[授業計画と内容]

●初回授業時の「ガイダンス」に、授業の進め方について説明しますので、必ず出席すること。
●訓読の技法を身につけ、文章の意味を理解することを第一の目的とします。２週目からは『資治通鑑』の文章に取り組んでいただきます。
●予習―授業―復習の内容は、以下の通りでです。
①予習：授業で読む箇所を事前にお知らせしますので、その部分について、読み下し、不明語句の下調べをしておくこと。
②授業：特に担当を決めず、適宜指名して、少しずつ原文を読み下してもらった後、内容についての質疑応答・解説を行います。
③復習：授業で読み進んだ箇所について各自復習すること。復習をきちんと行うことが漢文訓読上達の近道です。
●小テスト―力だめしとして、適宜、小テストを課します。
●授業中、漢和辞典を引いて漢字・語句の意味を調べてもらいます。必ず「紙の辞書」を持参すること！
●授業回数はフィードバックを含めて全15回とします。

ILASセミナー ：中国史の基礎資料(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：中国史の基礎資料(2)

[履修要件]

漢和辞典の引き方がわかっていること。
「漢文」訓読の基本についてよく理解していること。

[成績評価の方法・観点]

　授業参加に対する評価（きちんと予習できているかを見ます。50%）、小テストの成績（50%）とを総合して、成績を判定します。
【重要】３度の欠席で「不可」となりますので、ご注意下さい。

[教科書]

こちらでテキストを用意し、配布します。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

高等学校で学習した「漢文」の基礎について、きちんと復習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者は、漢和辞典を必ず持参すること。（初回授業時に何点か紹介します。）

[主要授業科目（学部・学科名）]